

2023年2月12日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒62番（旧16番）（MK姉）

『イエスをいかばかり』

聖書⇒詩編 45:8~10 節（MM姉）

『神に従うことを愛し、逆らうことを憎むあなたに／

神、あなたの神は油を注がれた／

喜びの油を、あなたに結ばれた人々の前で。

あなたの衣はすべて／ミルラ、アロエ、シナモンの香りを放ち／

象牙の宮殿に響く弦の調べはあなたを祝う。

諸国の王女、あなたがめでる女たちの中から／

オフィルの金で身を飾った王妃が／

あなたの右に立てられる。』

礼拝讃美歌⇒66番

『わが主の御衣』

聖書⇒詩編 139 編交読（SK兄）

『【指揮者によって。ダビデの詩。賛歌。】主よ、あなたはわたしを究め／わたしを知っておられる。

座るのも立つのも知り／遠くからわたしの計らいを悟っておられる。

歩くのも伏すのも見分け／わたしの道にことごとく通じておられる。

わたしの舌がまだひと言も語らぬさきに／主よ、あなたはすべてを知っておられる。

前からも後ろからもわたしを囲み／御手をわたしの上に置いていてくださる。

その驚くべき知識はわたしを超え／あまりにも高くて到達できない。

どこに行けば／あなたの霊から離れることができよう。どこに逃れれば、御顔を避けることができよう。

天に登ろうとも、あなたはそこにいまし／陰府に身を横たえようとも／見よ、あなたはそこにいます。

曙の翼を駆って海のかなたに行き着こうとも

あなたはそこにもいまし／御手をもってわたしを導き／右の御手をもってわたしをとらえてくださる。

わたしは言う。「闇の中でも主はわたしを見ておられる。夜も光がわたしを照らし出す。」

闇もあなたに比べれば闇とは言えない。夜も昼も共に光を放ち／闇も、光も、変わるところがない。

あなたは、わたしの内臓を造り／母の胎内にわたしを組み立ててくださった。

わたしはあなたに感謝をささげる。わたしは恐ろしい力によって／驚くべきものに造り上げられている。御業がどんなに驚くべきものか／わたしの魂はよく知っている。

秘められたところでわたしは造られ／深い地の底で織りなされた。

あなたには、わたしの骨も隠されてはいない。

胎児であったわたしをあなたの目は見ておられた。わたしの日々はあなたの書にすべて記されている／まだその一日も造られないうちから。

あなたの御計らいは／わたしにとっていかに貴いことか。神よ、いかにそれは数多いことか。

数えようとしても、砂の粒より多く／その果てを極めたと思っても／わたしはなお、あなたの中にいる。

どうか神よ、逆らう者を打ち滅ぼしてください。わたしを離れよ、流血を謀る者。

たくらみをもって御名を唱え／あなたの町々をむなしくしてしまう者。

主よ、あなたを憎む者をわたしも憎み／あなたに立ち向かう者を忌むべきものとし

激しい憎しみをもって彼らを憎み／彼らをわたしの敵とします。

神よ、わたしを究め／わたしの心を知ってください。わたしを試し、悩みを知ってください。

御覧ください／わたしの内に迷いの道があるかどうかを。どうか、わたしを／とこしえの道に導いてください。』

礼拝讃美歌⇒69 番（KH 姉）

『いとも慕わしきイエスの思い』

《パン裂き》

聖書⇒コロサイの信徒への手紙 1:19~20 節（NH 兄）

『神は、御心のままに、満ちあふれるものを余すところなく御子の内に宿らせ、その十字架の血によって平和を打ち立て、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万物をただ御子によって、御自分と和解させられました。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 19:25 節

『イエスの十字架のそばには、その母と母の姉妹、クロパの妻マリアとマグダラのマリアとが立っていた。』

聖書⇒マタイによる福音書 11:28 節

『疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。』

礼拝讃美歌⇒127 番（旧 211 番）

『十字架の許ぞ』

（式）

礼拝讃美歌⇒456 番（旧 200 番）

『カルバリ山の十字架』

《建徳》

聖書⇒ルカによる福音書 2:41~51 節（NH 兄）

『さて、両親は過越祭には毎年エルサレムへ旅をした。イエスが十二歳になったときも、両親は祭りの慣習に従って都に上った。祭りの期間が終わって帰路についたとき、少年イエスはエルサレムに残っておられたが、両親はそれに気づかなかった。イエスが道連れの中にいるものと思い、一日分の道のりを行ってしまい、それから、親類や知人の間を捜し回ったが、見つからなかったので、捜しながらエルサレムに引き返した。三日の後、イエスが神殿の境内で学者たちの真ん中に座り、話を聞いたり質問したりしておられるのを見つけた。聞いている人は皆、イエスの賢い受け答えに驚いていた。両親はイエスを見て驚き、母が言った。「なぜこんなことをしてくれたのです。御覧なさい。お父さんもわたしも心配して捜していたのです。」すると、イエスは言われた。「どうしてわたしを捜したのですか。わたしが自分の父の家にいるのは当たり前だということを、知らなかったのですか。」しかし、両親にはイエスの言葉の意味が分からなかった。それから、イエスと一緒に下って行き、ナザレに帰り、両親に仕えてお暮らしになった。母はこれらのことをすべて心に納めていた。』

礼拝讃美歌⇒395 番（旧 252 番）

『慈しみ深き』

《建徳要旨》